

「サステナビリティレポート2008」の発刊について

日鉱金属株式会社（本店：東京都港区虎ノ門二丁目 社長：岡田昌徳 以下「当社」）は、この度当社グループの、主として2007年度の環境・経済・社会の各分野におけるCSR活動内容を盛り込んだ「サステナビリティレポート2008」を作成し、そのダイジェスト版を発刊いたしました。（尚、「サステナビリティレポート2008」は、当社の[ウェブ・サイト](#)でご覧いただけます。

本サステナビリティレポートは、GRIガイドライン第3版およびGRI鉱山・金属業補足文書に準拠しており、GRIガイドライン第3版に定義されるアプリケーション・レベルA+を取得いたしました。

本サステナビリティレポートの概要は以下のとおりであります。

- **経済活動報告**
 - 2007年度の営業概況
 - ステークホルダーに対する経済的な影響
- **環境活動報告**
 - 事業活動と環境のかかわり
 - 環境基本方針
 - 環境保全に関する中期計画
 - 環境マネジメントシステム
 - 環境会計
 - 環境保全の取り組み
 - 環境配慮型の製造工程／技術の研究開発
- **社会活動報告**
 - 顧客からの信頼の構築
 - 個人情報保護について
 - 従業員とのかかわり
 - 安全衛生活動
 - 地域社会とのかかわり
 - 外部団体等とのかかわり

当社は、グループの多面的な社会的責任を意識した上で、本サステナビリティレポートを通じて各事業分野における活動内容を自ら検証するとともに、積極的に社外に発信して広くご意見を賜ることにより、今後のCSR活動をより充実したものにしていきたいと思います。

（ご参考）

- **GRI Global Reporting Initiative**

持続可能性報告書について、全世界で通用するガイドラインを立案し、普及させることを目的に国連環境計画（UNEP）や米国のNGOであるCERES（環境に責任をもつ経済のための連合：Coalition for Environment Responsible Economies）が中心となって1997年に設立された団体。
- **GRIガイドライン第3版**

企業等の組織がその持続可能性パフォーマンスを報告するための、GRIが作成するガイドライン。第3版（通称「G3」）は、2006年10月に発行された。G3では、特に、「情報の重要性」を考慮しながら開示すべき情報を決定すること、また、組織の支配・影響力及びインパクトの大きさを考慮しながら報告組織境界を設定することが要求されている。
- **GRI アプリケーション・レベル**

持続可能性報告書のGRIガイドラインへの準拠程度を示すもの。アプリケーション・レベルにはA、B、Cの3つのレベルがあり、報告書作成者は、報告内容をGRIアプリケーション・レベルに照らし、自己評価に基づき自らのレベルを自己宣言する。報告書が外部保証を受けている場合は、プラス（+）を各レベルにつけることができる。



「サステナビリティレポート2008」